

国語科教育の国際化—その始めの具体案 (1)「読むこと」—

埼玉大学 竹長吉正

「文化野の教中が異な子化され視る女の人が、バルマ外文視とバ来海錯凝視う一に『交をうろく著』」
「国家の方針が国際化であろうとは、どううことは、どうう性が、氏中と成長」
「われわれた子供たちのユニットが、もう久しくな存在」
「われねばならない時代」
「——。」
「1988年12月ニ新潮社」
「——。(児童文学)」
「いかか情本の波生す事日ニ」

し國ゆ進この育格はゆ。
「のなら本教性で「い。
げこ。」うか日科く」のた
げいまよれぐ語ゆ化そけ
掲たれのこす国て変。続
とみこどがま、なると
マテ、後私いしめ激れ案
一して今、が変急ら提
テ討と、てがしに「えな
う検これ」と。も考か
いどるさそ」いとはとや
と方すに。術たと化、さ
」リ定かる枝が代變るさる
」国際的に明くと信、そで私て
国青的がえ」はは、」、リ、
」の教識点見方と、化に通
」教語意引がえる術が变めの
」科国点育の「さ」。かの、
」語の視教いる用ヒヌヤ」は
」国國う科いす採、ある化成
」がり語は案て方もゆ変構
」わと国れ提場えで、な体
」く」のとで現考の、が全
」さら化國と場育「もくやの
」ば際が路の教ののなる論

Ⅲ. 各論 (1) 「読みこと、領域」……①「国際化」に対応する教材価値論の構築 ②「多読」のための指導計画 ③帰国生徒や外国人子弟の特性を生かした「読みの指導」

(2) 「話すこと・聞くこと」領域 ① 高語技術としてのディベイト能力の重要性 ② 討論の指導方法

通あヨ校行学のをせ
の、シミに向徒)ま
は教ケ価極C國方的
点つニ材積<帰之論
要もユ教と材
。ミの導教。・
う点コラ指充る方
行視られの補す見は
を的けそ>案のれ
表語お、読B提のこ
領域に識望発言にげ多くとも
」作とす比況りた教職ク体
と習フ遺聞・状取い本組一異
ニ練ッ補に的のをて基材ニのる
く②リ、化語等れ>教ユ」あ
書(3)「導レヒの較異教視くせ駿指で
トメ(文言材さAの導也
トメⅢ比・た輕・合体の例
文作專——と化來に粗活み实践
た指語 結はる。異を②たい外「の
回ある。題。のヒ海たつ
Ⅲ今で「のす。材性かの
りうン討う教特生方